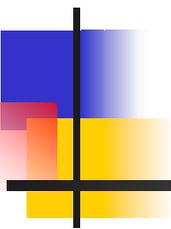
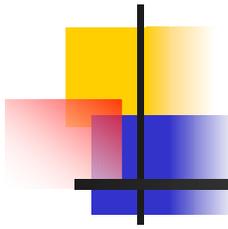


学び合いを活性化し、児童の知識・理解を確実にする方法について

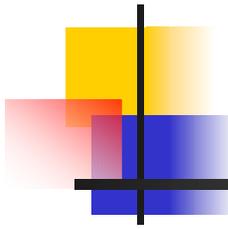


新潟県上越市立春日小学校
石崎 隆



研究の背景

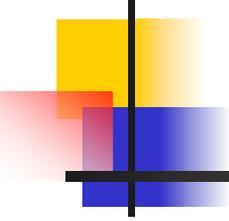
- 学び合いの姿
 - 子どもたちがグループになり、話し合う
- 主体的な子どもたちの姿
- 話し合いに多くに時間を設定する
- 授業終了後に、知識・理解は維持できたか？



グループ学習の効果

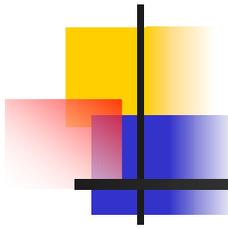
- 古谷田、小川(1989)は、中学2年の電流の指導を例に

「グループ分け指導は、電流に関する知識の獲得に関して有効であった。」



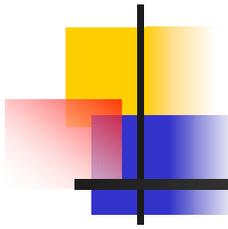
グループの分け方

- レディネステストの解答パターンの似たもの同士を集めてグループを構成した。
- 日常の教育活動の中で、このようにグループ分けすることは困難である。



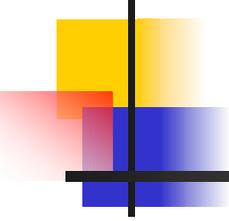
話し合い文化の形成

- 川合(1998)は、
 - 話し合い活動ではお互いの判断だけではなく、その判断の根拠となる知識・経験をやり取りすることが大切である。
 - 毎回の授業において、5分間のグループによる話し合い活動を行う。



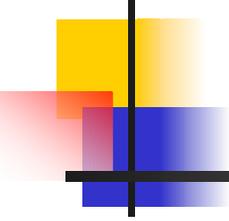
話し合いの効果

- 「認知面において記述式のいわゆる思考力を要求する設問では効果が認められ、情意面においては、自己評価・他者評価が高まり、さらにコミュニケーション能力が向上するという結果になった。」



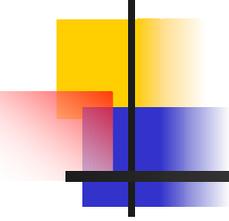
疑問

- 知識・経験をもとにした子どもたち会話をグループ内で分析
- グループ内での会話の行き詰まり
- グループが違っていても、解決する方法を知っているような友達がいる
- 立ち歩いて聞きに行ったらどうか？



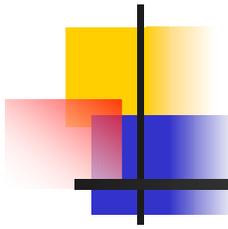
立ち歩き

- クラスの決まり
 - 授業中は静かにし、きちんと教師の話聞く。
 - 勝手に席を立て動かない。
- 立ち歩くことにマイナスのイメージをもっている
- 目的をもって立ち歩くならば、立ち歩きを積極的に取り入れてもよいのではないか。



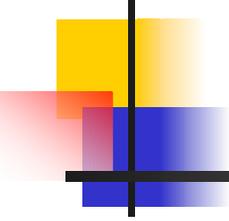
研究の目的

- 立ち歩きが成立した授業においても、知識・理解が維持されるか明らかにする。
- 立ち歩きによって、児童の知識・理解がどのように共有されていくか明らかにする。



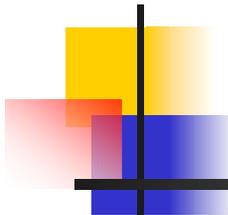
研究調査

- 調査時期：2002年9月13日～11月11日
- 調査目的：
立ち歩きの成立と知識・理解の伝わり方・業者テストでの正答率の関係について明らかにする。
- 調査対象：新潟県内A小学校 5学年
(2クラス 理科 2単元)
- 調査方法：録音テープ、録画ビデオによる記録、業者テスト



教師の支援

- 立ち歩きをしてよい。
- 教師は質問に答えず、児童の知識・経験のやり取りを見守る
- おおげさにほめる



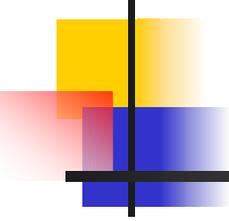
立ち歩きを促す

- **互いに比較し、評価の観点を検討する**
 - 毎時間の学習プリントを3段階評価し返却後、比較検討する時間を確保した。
- **目的意識を明確にする**
 - 新5年生の学習の出発点となる新聞を作る
 - 同学年の友達に向けた発表会を開く
 - 学習成果を関川の見学に生かす
- **生活班を活用する**

授業の様子

- 立ち歩き、他の班で相談している。





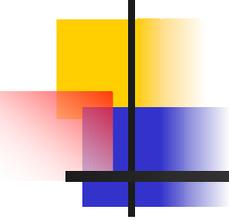
授業の様子

- 新聞づくりで協力する。

授業の様子

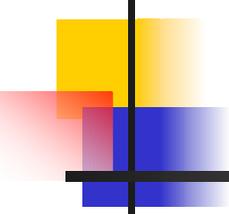
- 身を乗り出して、話し合いをしている。





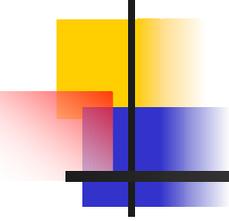
知識を交換する会話

- 教師：水害を防ぐために、川にどのような工夫がされているか
- 女1：わかった、わかんない。
- 男1：川にさ、**ハンドルみたいのある**
- 男2：ダムがつくられている。
- 男2：川に変なへいみたいのある。
- 男2：そっから水が流れてくる、**ハンドルくるくる**
- 男2：(今話題になっている川は)関川だっけ
- 女1：**保倉川**
- 男1：そんだったら、Oさんに聞いた方がいいよ。**Oさん家の前、(保倉)川だから。**



事例 1 : 発言して立ち歩く

- 男2 : ああ、あの川かコイがいるんだよ。
- 女2 : 銀色だったよ。
- 女1 : 水で流されたんじゃない。
- 女1 : その話はおいといて
- 男1 : 水害がきたら大丈夫。
- 男2 : まわりがダムになっている。
- 男1 : そうだよ。
- 女1 : ここ歩く場所だよ、川がこうなってて、それで
- 男2 : 川がある。
- 女1 : 女2ちゃん、(説明を補ってほしい)
- 女2 : 私に聞かないで。
- 女1 : 隣の班に聞いてくる。 立ち歩きを始める



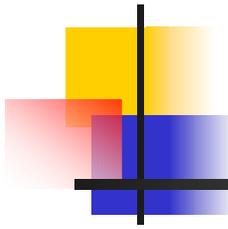
立ち歩き後の会話

- 女1が、隣の班から立ち歩いて戻ってくる
- 女1: **教科書、見よ。**
- 男2: おれ、教科書持ってきてないよ。
- 男2: あったかな。
- 男1: ほらここにあるじゃん。
- 女2: (**教科書の関連ページを指して**) これじゃない。

事例2：発言せずに立ち歩く

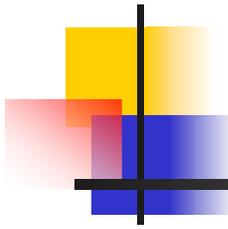
- 班員に知らせない立ち歩き





立ち歩き後の会話

- 女1: 女2ちゃんたちは、女2ちゃんたちは。
- 男2: 知らん。
- 女1: あ、いた。あれ、いないよ、男1とか。
- (しばらくして、男1と女2が戻ってきた)
- 女1: なんかあった？
- 女2: なんかあったけど、あれ、水害を防ぐためなのかな。
- 女2: なんかこうあるじゃん、このへんは、木で隠れていてわかんなかったんだけど、ここでこういうようなものがあるって、
- 男2: 学校みたいな、学校みたいなへいだよ……
- 女1: あーあーあ(想像がつく)
- 男1: 見てくる。
- 班員すべてが、立ち歩いて女2が説明していたものを見に行く

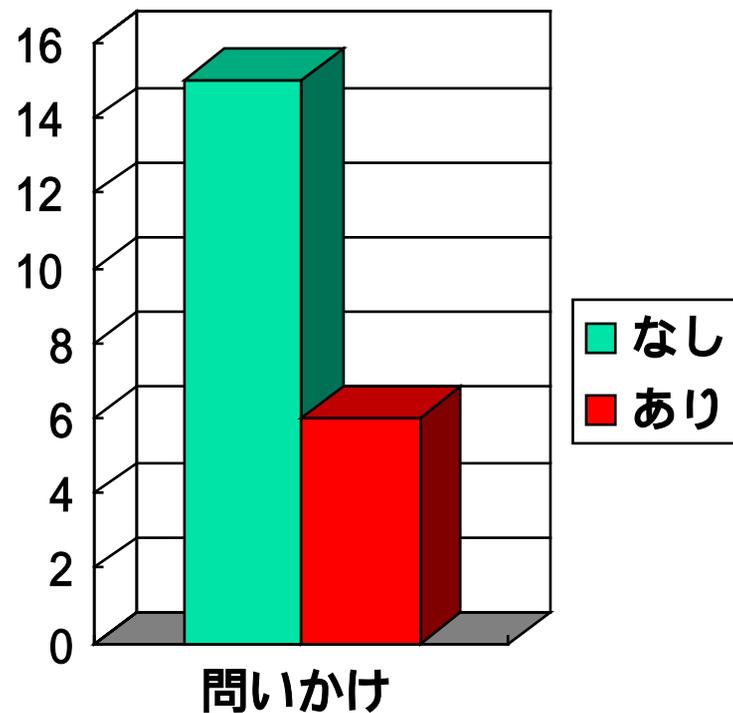


立ち歩き後の会話

- 男2:男1さん、男1さん
- 男2:これは
- 女1:コンクリートで川岸を固めたり、かいてい?かわてい?川底にブロックをうめて、流れの勢いを弱めたりして堤防が崩れるのを防ぐ。
- 男2:でいいんじゃないの。
- 男1:え、水害でしょ。
- 男1:え、でっけえ川、でっけいダムがある。
- 女2:う、う、う
- 女1:知っている、知ってる。
- 女2:これ書こうよ、これ書こうよ。
- 女1:これチェック。えーと、これ書こう。

他の班からの立ち歩き

- 他の班から近づくが、
問いかけずに通り過ぎる人数



同一学年での比較

- 文けい社のテストを用いて、調査クラス(A、B)、他クラス(C、D)
 - どのクラスも正答率(80%)以上であり、
解は維持される。

知識・理

調査クラスの平均点

	表	裏
Aクラス	89.4(89.4%)	43.7(85.8%)
Bクラス	90.8(90.4%)	45.5(91.0%)

他クラスの平均点

	表	裏
Cクラス	93.8(93.8%)	45.4(90.8%)
Dクラス	86.1(86.1%)	

全国平均点との比較

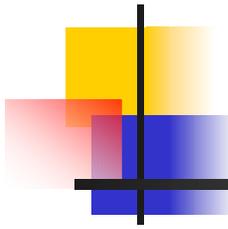
- 新学社のテストを用いて
 - 表：A、Bクラス共に全国平均点以上を得点
 - 裏：A、Bクラス共に全国平均点以下を得点

全国平均との得点差（表）

	得点	全国平均	差
Aクラス	82.7	82	0.7
Bクラス	82.4	82	0.4

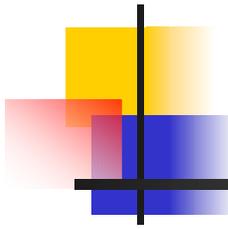
全国平均との得点差（裏）

	得点	全国平均	差
Aクラス	33.7	41	-7.3
Bクラス	29.5	41	-11.5



全国平均点以下の問題

- 問題:
- 川の水害を防ぐ工夫です。コンクリートの川岸は、どんな働きをしていますか
- **正解**: 川岸が削られるのを防ぐ
- **誤答**: 水があふれるのを防ぐ(11/12人)



今後の調査方針

- 立ち歩き前後の会話から誤答が立ち歩きによって伝達されたか。
- 立ち歩きの分類を明確にし、単元を通して立ち歩きの様子がどのように変化していくか。
- 立ち歩きを取り入れた調査クラスと他クラスでの正答率が時間の経過に伴ってどのように変化したか。